

京都大学図書館改善特別委員会 (第5回)

京都大学図書館改善特別委員会(第5回)は4月13日午後3時から附属図書館において開催された。今回は主として各学部における雑誌の収集、管理利用の問題について討議された。各委員より学部における雑誌の寄贈、購入についての状況、欠本による製本の渋滞、個人寄贈の雑誌整理の問題などが出され活潑な意見が交されたが、特に寄贈、交換の場合の窓口の一本化、欠号図書の処理、ソ聯科学アカデミー発行の英訳版図書の購入、教授などの個人の所蔵にかかる図書の寄贈、地方議会の議事録の購入などのことが要望された。

京都大学附属図書館商議会 (4月27日午後3時 於 図書館会議室)

堀江議長より図書館所管事務について報告があったのち、協議事項である京都大学附属図書館規程施行細則の図書の貸出に関する条文の一部改訂、今般ゼロックス複写業務をはじめにあたり、文部大臣宛に料金表の承認申請する必要上、従来の京都大学附属図書館マイクロフィルム取扱内規を改めて、同文献複写規程を制定することになり、本館で作成した案について審議され、協議の結果、施行細則の一部改訂については一部修正のうえ、規程については原案通りそれぞれ承認された。

京都大学附属図書館規程施行細則改正点

第3条, 第2項第2号

2 学生

大学院学生 1ヶ月以内

学部 学生 2週間以内

第3条第3項

ただし、第2項第2号の学生については春、夏、冬の各休業期間中に限り、右の期間によらず休業期間終了後1週間まで返却を猶予することができる

第4条第2号

2 学生

大学院学生 10冊以内

学部 学生 5冊以内

第8条 削除

京都大学附属図書館文献複写規程

第1条 京都大学附属図書館の行なう図書

その他の文献の複写(以下「複写」という。)に関しては、この規定の定めるところによる。

第2条 複写は、京都大学附属図書館規程第12条により撮影の許可をうけた者のほか、学術研究上の目的を有するものについて大学、研究所、試験所等の学術機関およびこれらの機関に所属する者の依頼に応じて行なう。

第3条 複写を依頼しようとする者は、所定の申込書に必要事項を記入の上附属図書館長に申し込むものとする。

第4条 前条により複写の申込をなした者は、別表に定める複写料金を前納しなければならない。

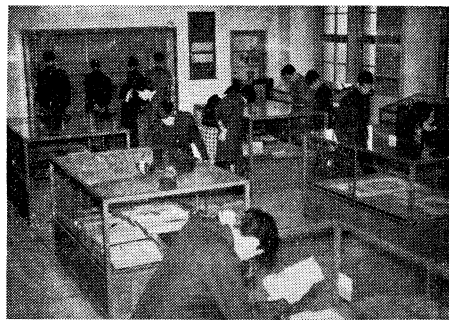
(2) 一旦、納付された複写料金は、いかなる理由があっても返還しない。

なお、旧京都大学附属図書館文献複写料金実費表に次の事項を加え別表とする。

ネガフィルム	ただし3コマ以下は3コマとして計算する
電子写真複写	B4 30円

京都大学貴重書展

本年も新入生の歓迎の意味をふくめて、去る4月12日より15日まで図書館において京都大学貴重書展が開催せられた。今回の展覧の特に従来と異なる点は出品はすべて各部局の所蔵であり、いわば全京大の展覧とでも称せられるものであった。この意味で展覧を通じて各部局の力強い命脈が感ぜられ、総合大学のスケールの大きさが示され新入生をはじめ、学内外の来観者が多数あって、近来にない盛況裡に無事展覧を終了した。展覧品のおもなものは次の通りである。



文学部出品 俳諧連歌抄(山崎宗鑑自筆)のほか、故西田幾多郎、故三浦周行両教授の

原稿ノートから、戦国部将の消息、マリヤ十五玄義図その他。

法学部出品 主として法制史関係の資料が出品され、近世の刑罰史の参考資料として隠れ切支丹、手錠、その他。

教育学部出品 明治7年から11年にわたる小学校卒業証書、その他。

経済学部出品 往古の唯一のニュース機関であった瓦版等が出品された。

理学部出品 曲線模型、蛙の化石が出品されたが、特に、内田教授の苦心の制作にかかると岩塩巨大単一結晶は注目された。

医学部出品 杉田玄白訳の解體新書はあまりにも著名である。

工学部出品 古建築の資料として関防院立様図、慎徳堂立様図が出品された。

人文科学研究所出品 中国宋時代刊本の附積音春秋左伝疏、同監本附音春秋公羊註疏、等の中国古刊本が出品された。

一館内めぐり

図書館の窓口 閲覧貸付掛

閲覧貸付掛というのは銀行の窓口と同じで図書館の第一線である。最も主要な仕事はカウンターで利用者に適切な奉仕をすることである。本館には開架室と閲覧事務室とにカウンターがある。

開架室 ここには教官から推薦された指定書をはじめ、一般図書、教官文庫、法、経関係の雑誌のバックナンバー及び語学辞書等約1万冊、その他新着雑誌類1,000余種が排架されている。この部屋の利用者を39年度の統計でみると、実際に図書を利用した者は1日平均108名、165冊で、その2~2.5倍の人数が部屋を出入りしていると考えられる。係員はたえず出入りする利用者の応接に、又レファレンスに、そして返却図書の整理と書架への返戻排架のみで一日を終始しているのである。

閲覧事務室 書庫に納められている図書の利用申込みはここで受付けている。係員は記入された請求記号により書庫から図書を出すのであるが、実際は請求記号の書き違いや叢書名を書き忘れた不完全なものが多く、それ等に対しても商売柄の感を働かせ、カードを再調査するまでもなく目的の図書を探し出す特技を発揮したりなかなか苦勞の多い仕事である。貸出し手続きや図書の返却もこのカウンターで受付けているが、開架室の開設で少々楽になったとはいうものの、常に書庫とカウンターの間を往復を繰り返す席にもどれば図書の返却者が待っていて、借用証のファイルからの除外と図書の整理に一日中落付けない。

窓口の仕事ではないが図書の借用証の整理は一日とてためておけない仕事で、常に借用期限に注意して督促状を発送するのも気の重い仕事である。又月末には開架図書の整理と不在架図書の調査も大変な作業の一つ、閲覧貸付統計の作成も図書館の予算要求の資料の一つとなる重要な仕事である。整理過程を終って来た新着図書と、そのカードの整理や開架室への排架、或は特別閲覧者に対する手続きや応接等々、ちょっと数えただけでも仕事の種類の多い係ではある。

あとがき

3月に卒業生をおくりだし、一沫の淋しさを味った私達は新学期とともに、ま新しい学生証を片手に図書館を利用する新入生に喜びを覚える。これからの4年間、学生々活において図書館が学習の主要な場として利用されることをねがってやまない。

本号より下記の13名が編集を担当することに

なった。図書館と図書館利用者が密着した館報とするために、皆さんの声をおきかせ下さい。

伊藤 祐昭(委員長) 古原 雅夫(医学部)
広庭 基介(本館) 今井 敏子(理学部)
内藤 昭子() 金井 孝(経済学部)
尾崎富美枝() 丸山みゆき(数理研)
上田 展世() 村田 修身(教育学部)
山本 重雄() 須原 英夫(法学部)
吉井 良之()